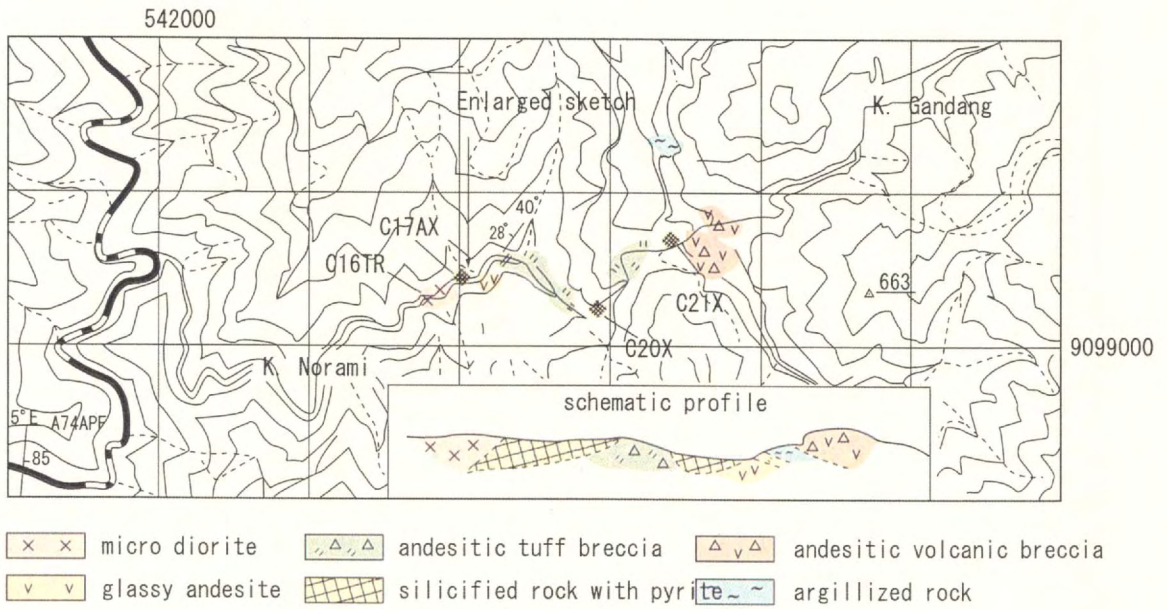
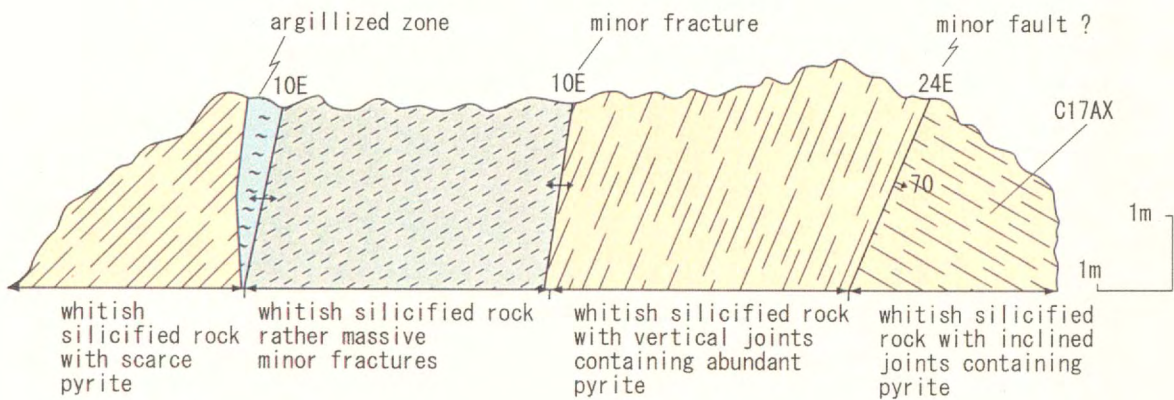


K. Ngrami ~ K. Gandang Mineralized Area

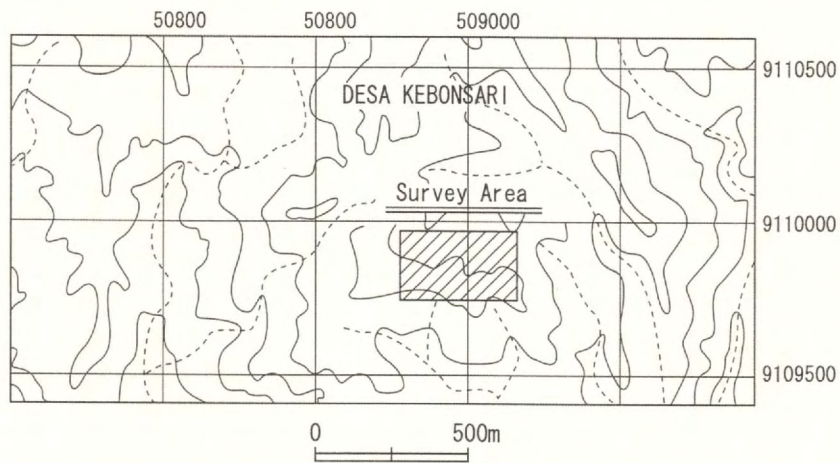


Sample No.	Cu (ppm)	Pb (ppm)	Zn (ppm)	Ag (ppm)	Sb (ppm)	Au (ppb)	Hg (ppb)	As (ppm)
A 74 APF	561	671	16960	4	1.25	78	942	24
C 17 AX	20	64	29	3	1.0	40	2075	4

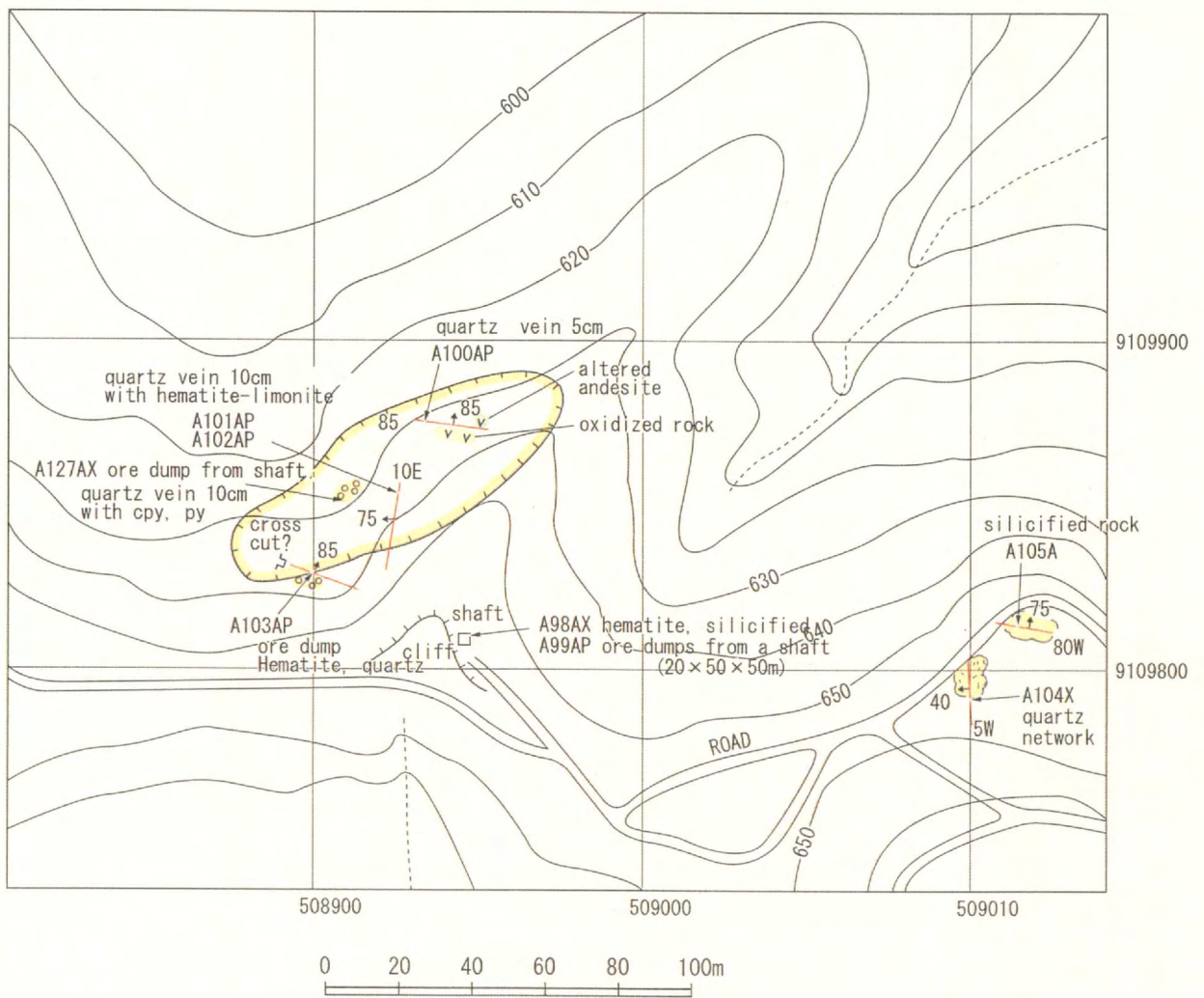
Enlarged sketch (vertical profile)



第2-21図 鉱徴地スケッチ (5) Lorog川地区の②

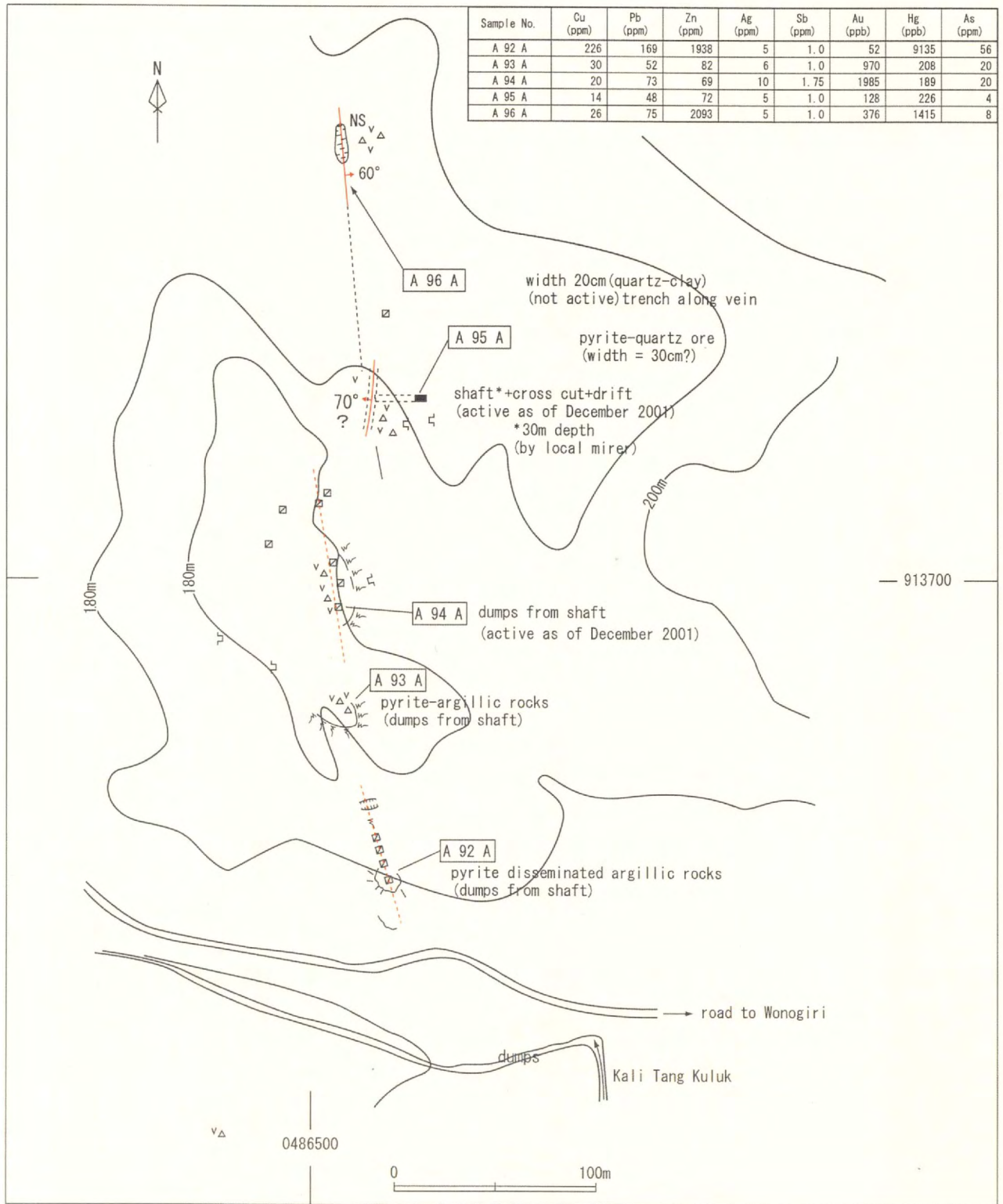


Sample No.	Cu (ppm)	Pb (ppm)	Zn (ppm)	Ag (ppb)	Sb (ppm)	Au (ppm)	Hg (ppb)	As (ppm)
A 98 A	16	14	26	2	1.25	18	981	<0.5
A 99 A	10	22	19	2	1.25	14	212	4
A 100 AP	558	18	39	2	1.5	700	226	8
A 101 A	3126	45	27	3	1.0	434	302	8
A 102 A	1219	17	73	2	2.0	28	906	4
A 103 AP	43	6	8	2	0.75	68	283	12
A 105 A	726	25	40	3	4.0	18	1340	4
A 127 A	23640	115	128	69	1.0	170	113	<0.5



Near Kebonsari

第2-22図 鉱徴地スケッチ (6) Punung地区



Legend

- ▣ shaft
- ⋯⋯⋯ tunnel (estimated)
- ∇_Δ outcrop (weathered)
- ▤ Trench
- ⊞ portal (from existing data)
- ∇_Δ andestic tuff brecca
- ~200~ Contor (mabove sea level)

第2-23図 鉱徴地スケッチ (7) Selogiri地区

第4章 地化学探査

4-1 調査方法

地化学探査は約 2,000km²から 817 地点を選び 80 メッシュ以下の沢砂を採取し、第 1-1 表に示す 28 成分を分析した。沢砂地化学探査試料の採取に際しては、採取密度の目安を 1km² 毎に 1 サンプルとした。沢砂地化学探査試料は 80 メッシュの篩を行ったものを分析に供した。なお、40 箇所重複試料を採取し試料採取時の誤差の検討に資することとした。

4-2 地化学探査結果

(1)分析結果

巻末資料の第 A-8 表に示すとおりである。それぞれの成分の統計諸量は第 2-8 表に示す。

(2)分析誤差

第 A-8 表に示すとおり、Au 以外の分析結果以外は分析誤差の範囲にあると判断される。なお、同一地点で採取した重複試料で、Au 以外の成分がほぼ同じ分析値を示すにもかかわらず、Au の分析結果が大きくばらつくのは主として Nugget 効果のためと推定される。

(3)各元素間の相関

- ・ Au : 第 2-9 表に示すとおり Au は Na, Mg, Ni, Sr と弱い正の相関があるが、As, Hg, Pb, Zn, Cu とは顕著な相関はない。また、Pb, Zn, Cu 間のいずれとも相関はない。
- ・ Cu : Pb 及び As と正の相関が認められる。また、K, Al 及び Mg とともに正の相関があるが、これは変質作用を反映している可能性がある。
- ・ Pb : Cu, Zn 及び As と正の相関がある。
- ・ Zn : Cd, Bi 及び Pb と正の相関が認められる一方、Ti, Cr, Mn, Fe 及び Co と強い正の相関を示し、Zn が鉱化作用のみだけでなく、母岩の岩質をも反映していることを示唆する。
- ・ Mo : Cu と弱い相関を示すが、一般に低い相関係数を示す。
- ・ その他、いわゆる親鉄元素間の相関(Fe, Ni, Co, V, Cr 及び Mn)、造岩鉱物成分間の相関 (K, Al 及び Mg) は母岩の性質とともに変質作用を反映していると考えられる。Al と Sr との相関は母岩のアルカリ度に起因していると推定される。また、Co 及び Bi は通常、Pb 及び Zn 等の鉱化作用と関連するが Pb 及び Zn ほど良い指示元素ではない。本地域においても、Bi 及び Cd は Co

及び Ti 等と相関があり、母岩の塩基性岩ほど高いことを示しており母岩の影響が大きく鉱化作用の指示元素としては Pb 及び Zn に比べ劣ると判断される。

(4)各成分の異常域の分布

各成分の分析値を地質調査の結果と併せて考えると本地域内の鉱化作用としては Au, Ag, Cu, Mo, Pb 及び Zn が期待できる。これらの鉱化作用の指示元素として Au, Cu, Pb 及び As がもっとも有効で次いで Hg, Zn 及び Mo も有効と考えられる。これらの成分の異常値の分布域は下記のとおりである。

- ・ Au : 沢砂の分析値は一般に低いこのため、38ppb 以上を異常値とした。38ppb 以上は 10 箇所、①Tegalombo-Slahung 地区、②Slahung 南方地区、③Lorog 川地区、④Punung 東方、⑤Wonocoyo 地区及び⑥Kedungwedi 川地区とである。このうち①、③及び⑤の地区はそれぞれ 2 地点が地化学異常を示している。なお、このうち 50ppb 以上は A003S(66ppb), A049S(67ppb), A111S(96ppb), A114S(219ppb), E126S(69ppb), F043S(132ppb)及び F089S(60ppb)であり、また、15ppb 以上 (> 平均値 + 標準偏差) は 34 地点あり、①地区に多い。
- ・ Ag : 1.7ppm 以上 (> 平均値 + 3 × 標準偏差) の 12 試料を異常値とした。①Tegalombo-Slahung 地区及び②Slahung 南方地区で集中して抽出される。試料 A024S は Pb, Zn 及び Cu 異常と、また、試料 F056S は Mo 異常と重複することから鉱化作用に起因する Ag 異常とみなされる。
- ・ Cu : 116ppm 以上 (> 平均値 + 3 × 標準偏差) の 3 試料を異常値とした。異常値の分布域は①Tegalombo-Slahung 地区(A024S)、③Lorog 川地区(B094S)及び⑤Candi-Pule 地区北方(D042S)である。それぞれの試料は Ag, Pb, Zn, As の異常、Mo の異常及び Mo, Hg の異常を示す。
- ・ Pb : 58ppm 以上 (> 平均値 + 3 × 標準偏差) の 4 試料を異常値とした。①Tegalombo-Slahung 地区(A010S 及び A024S)、③Lorog 川地区(B040S)及び④Punung 東方(E112S) に分布する。このうち、A010S は Zn 異常と、A024 は Ag, Cu, Pb, Zn, As 異常と、また、E112S は Zn 異常とそれぞれ重複するが、B040S では他成分の異常と重複しない。
- ・ As : 44ppm 以上 (> 平均値 + 3 × 標準偏差) の 8 試料を異常値とした。①Tegalombo-Slahung 付近 (A024S 及び B032S)、②Slahung 南方(D079S 及び F078S)、③Lorog 川付近の鉱徴地(B092S)、④Punung 東方(E117S) 及び⑤Pule 北方 (B064S 及び D057S)に分布する。このうち 5 試料は Au の

弱い異常 (2~6ppb)を示す。As 異常域の分布は分散しているが、比較的集中する Ponorogo 南部から Lorog 川にかける異常域は鉱徴地と大局的に対応する。

- ・ Hg : 166ppb 以上 ($>$ 平均値 + 3 × 標準偏差) の 7 試料を異常値とした。②Slahung 南方(E047S), ⑤Pule 北方 (D042S 及び D043S), Ponorogo 西方(C019S)及び Wonogiri 西方(F113S), Pacitan 東方(B084 S)及び④Punung 東方 (D150S)に異常域が分布する。このうち、2 箇所が Au の異常と重複する。
- ・ Mo : 2.3ppm 以上 ($>$ 平均値 + 3 × 標準偏差) を異常値とした。③Lorog 川付近の鉱徴地(B094S 及び A052S), ⑤Pule 東方 (D042S), ⑥Wonocoyo 地区(F056S, F072S), 中央北部(C019S 及び C043S),)④Punung 東方 (D138S 及び E109S) の 9 試料で異常値を示す。このうち、F056S は Ag 異常を、B094S は Cu の異常を、また、C019S は Hg 異常を示すが、その他の試料は Au, Ag, Cu, Pb または Zn 異常と重複しない。
- ・ Zn : 271ppm 以上 ($>$ 平均値 + 3 × 標準偏差) の 10 箇所を異常値とした。①Tegalombo- Slahung 地区(A010S 及び A024S), ②Slahung 南方(E006S 及び E029S), ③Lorog 川流域の鉱徴地(A051S), ⑤Pule 東方 (A071 S), ⑥ (C143S 及び C155S) 及び⑩Kedungwedi 川地区 (E126S 及び E141S) で異常を示す。
- ・ Mo : 2.3ppm 以上 ($>$ 平均値 + 3 × 標準偏差) の 9 試料を異常値とした。③Lorog 川流域の鉱徴地(B094S,A052S), ④Punung 東方(D138S 及び E109S), ⑥Wonocoyo 周辺(F056S 及び F072S)及び⑦Ponorogo 西方(C019S,C043S)でそれぞれ 2 箇所及び⑦Pule 北方(D042S)で 1 箇所の異常値が検出されている。このうち Lorog 川流域の 1 試料(B094S)は Cu の異常を示す。

第2-8表 地化学探査試料分析結果の統計値

	Au	Be	Na	Mg	Al	P	K	Ca	Ti	V	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Sr	Mo	Ag	Cd	Sb	Ba	W	Hg	Pb	Bi	
	ppb	ppm	%	%	%	%	%	%	%	ppm	ppm	ppm	%	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppb	ppm	ppm	
number	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817	817
minimum	0.5	0.25	0.005	0.11	0.61	0.005	0.005	0.04	0.02	84	8	433	2.03	6	1	7.1	26.5	1.5	3.7	0.5	0.1	0.5	2.5	10	5	2.5	1	0.5	
maximum	219	9.2	0.29	2.05	5.98	0.12	0.22	12.5	1.28	1180	185	3920	23.2	61	51	477	580	241	1040	8	8.3	7	9	745	5	1120	398	35	
average(av)	3.963	0.3636	0.0533	0.585	2.044	0.018	0.068	0.704	0.3508	366.9	35.71	1270.4	8.4823	22.51	12.2	33.01	121.2	4.65	59.67	0.6	0.25	0.65	2.51	92.07	5	17.629	8.528	8.76	
standard deviation(std)	11.52	0.3561	0.0393	0.393	0.919	0.011	0.035	1.043	0.2372	174.8	19.48	380.93	3.441	8.172	6.62	27.84	50.06	13.2	55.95	0.55	0.89	0.66	0.23	65.81	0	49.641	16.37	7.67	
average+std	15.49	0.7197	0.0926	0.979	2.963	0.029	0.103	1.747	0.588	541.6	55.19	1651.3	11.923	30.68	18.8	60.85	171.3	17.9	115.6	1.15	0.94	1.31	2.74	157.9	5	67.27	24.9	16.4	
average+2std	27.01	1.0758	0.1319	1.372	3.881	0.04	0.138	2.789	0.8251	716.4	74.67	2032.2	15.364	38.85	25.4	88.68	221.4	31.1	171.6	1.71	1.63	1.97	2.96	223.7	5	116.91	41.27	24.1	
average+3std	38.53	1.4319	0.1712	1.765	4.8	0.051	0.174	3.832	1.0623	891.2	94.15	2413.2	18.805	47.02	32	116.5	271.4	44.3	227.5	2.26	2.32	2.63	3.19	289.5	5	166.55	57.64	31.8	
number for samples >av+2Xstd	15									39	0	23		29	42	16	33	15		23	15	48		29		7	12	46	
number for samples >av+3Xstd	10									5	0	9		15	6	3	10	8		9	12	23		11		7	4	3	

Reference

Crustal Abundance	3	2	2.5	1.7	8.1	0.09	2.5	3.3	2	150	100	1000	4.85	25	75	50	80	2	300	1.5	0.05	0.1	0.1	580		20	10	0.1
Mafic rock	3.2															72	94	1.5		1.5	0.1	0.2		330		0.01	4	0.05
Granitic rock	2.3															12	51	2.1		1.3	0.04	0.1		840		0.04	18	0.3

第2-9表 地化学探査試料分析値の相関係数

	Au	Be	Na	Mg	Al	P	K	Ca	Ti	V	Cr	Mn	Fe	Cu	Ni	Zn	As	Sr	Mo	Ag	Cd	Sb	Ba	W	Hg	Pb	Bi	
Au	1.000	0.001	0.231	0.190	0.145	0.132	0.101	0.039	-0.009	0.007	0.022	-0.042	-0.026	0.077	0.195	0.084	-0.059	-0.031	0.118	-0.028	0.053	0.009	-0.009	-0.038	-	-0.024	-0.036	0.039
Be		1.000	0.020	0.022	0.044	0.023	0.004	-0.018	0.007	0.035	0.020	0.004	0.034	0.050	0.041	0.010	-0.005	-0.028	0.010	-0.007	-0.001	0.003	-0.011	0.011	-	0.003	-0.019	0.025
Na			1.000	0.345	0.422	0.241	0.209	0.387	-0.015	-0.074	0.067	-0.091	-0.170	0.000	0.320	0.059	-0.261	-0.048	0.409	-0.030	0.006	-0.072	-0.021	0.059	-	-0.027	-0.190	0.096
Mg				1.000	0.764	0.207	0.529	0.050	-0.222	-0.171	0.053	-0.045	-0.164	0.180	0.585	0.443	-0.095	-0.116	0.371	-0.038	-0.024	-0.091	0.005	-0.120	-	-0.042	-0.157	-0.078
Al					1.000	0.073	0.432	0.187	-0.168	-0.165	0.065	0.061	-0.181	0.220	0.501	0.341	-0.306	-0.102	0.525	-0.045	-0.018	-0.110	-0.013	0.210	-	-0.044	-0.214	-0.075
P						1.000	0.235	0.240	-0.376	-0.337	-0.144	-0.191	-0.314	-0.255	-0.128	0.165	-0.041	0.190	0.047	0.015	0.090	-0.035	0.038	-0.063	-	-0.023	0.086	-0.177
K							1.000	-0.036	-0.463	-0.459	-0.103	-0.176	-0.427	-0.222	0.139	0.333	-0.142	-0.021	0.160	-0.013	-0.033	-0.121	0.091	-0.088	-	-0.022	0.061	-0.300
Ca								1.000	-0.087	-0.100	0.046	0.044	-0.119	-0.042	0.098	-0.021	-0.169	0.145	0.424	0.089	0.022	-0.065	-0.011	0.231	-	-0.018	-0.083	-0.029
Ti									1.000	0.913	0.503	0.392	0.877	0.654	0.370	-0.212	0.523	-0.107	-0.050	-0.072	-0.066	0.216	-0.047	-0.080	-	-0.003	-0.088	0.740
V										1.000	0.613	0.387	0.917	0.726	0.431	-0.155	0.517	-0.069	-0.065	-0.077	-0.056	0.236	-0.056	-0.116	-	0.001	-0.075	0.680
Cr											1.000	0.190	0.533	0.556	0.534	-0.001	0.304	-0.006	0.049	-0.041	-0.088	0.231	-0.023	-0.161	-	0.005	-0.062	0.385
Mn												1.000	0.426	0.536	0.183	-0.028	0.362	-0.055	0.064	-0.055	-0.011	0.188	0.008	0.515	-	-0.016	0.041	0.294
Fe													1.000	0.651	0.416	-0.109	0.576	0.002	-0.076	-0.035	-0.028	0.095	-0.050	-0.134	-	0.009	-0.029	0.775
Cu														1.000	0.513	0.109	0.358	-0.085	0.119	-0.092	-0.093	0.534	-0.054	0.083	-	-0.032	-0.089	0.362
Ni															1.000	0.231	0.142	-0.073	0.337	-0.056	-0.047	-0.051	-0.011	-0.128	-	-0.025	-0.170	0.419
Zn																1.000	0.153	0.280	0.157	0.163	0.019	0.079	-0.011	-0.023	-	0.015	0.438	-0.113
As																	1.000	0.017	0.113	0.058	0.072	-0.004	0.092	-	0.030	0.510	-0.039	
Sr																		1.000	-0.005	-0.007	-0.056	-0.019	0.321	-	-0.035	-0.163	0.004	
Mo																			1.000	0.071	-0.028	-0.006	-0.011	-	0.048	0.008	-0.003	
Ag																				1.000	-0.028	-0.008	-0.001	-	-0.013	0.082	0.030	
Cd																					1.000	-0.008	-0.019	-	-0.021	0.149	-0.183	
Sb																						1.000	-0.004	-	-0.008	0.104	-0.029	
Ba																							1.000	-	-0.014	0.076	-0.092	
W																								-	-	-	-	
Hg																									1.000	0.016	-0.021	
Pb																										1.000	-0.085	
Bi																											1.000	

第2-10表 地化学異常値の分布

地化学異常域		No.	Sample No.	Au	Cu	Zn	As	Mo	Ag	Hg	Pb
				ppb	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm
C1	Tegalombo-Saluhung	1	A003S	66	60.6	80.6	1.5	0.5	0.2	5	1
		2	B040S	0.5	50.9	161	1.5	0.5	0.1	14	64
		3	B032S	1	40.9	57.4	60	2	0.2	17	7
		4	A022S	16	19.3	87.4	1.5	1	5.4	2.5	5
		5	A024S	6	453	580	217	0.5	2.3	6	398
		6	A018S	39	57.5	60.6	1.5	0.5	0.2	6	1
		7	A020S	16	30.1	95.4	1.5	0.5	8.3	13	5
		8	A010S	13	33.4	272	5	0.5	0.3	7	77
C2	Saluhung南方	1	E022S	0.5	13.2	52	1.5	0.5	3.5	12	1
		2	E006S	7	17	286	1.5	1	0.6	12	8
		3	E020S	15	28.1	91	7	0.5	6	12	18
		4	E029S	1	17.5	305	9	0.5	0.4	15	10
		5	E005S	6	24.9	78.6	9	0.5	7.7	14	4
		6	E001S	4	13.6	102	7	0.5	6.3	9	5
		7	A099S	44	41.2	77.8	1.5	0.5	0.2	16	1
		8	E047S	0.5	18.8	101	1.5	0.5	0.1	584	6
		9	F078S	1	33.7	153	63	2	0.3	34	7
		10	D079S	3	40.4	173	51	0.5	0.1	11	40
		11	E042S	0.5	29.6	116	1.5	0.5	2.3	7	10
C3	Lorog川	1	B092S	4	35.8	136	48	0.5	0.4	22	27
		2	B094S	5	477	103	1.5	5	0.3	77	7
		3	A114S	219	54.7	74.8	1.5	0.5	0.2	7	1
		4	A052S	1	46.8	99.2	1.5	4	0.2	8	4
		5	A051S	3	38.8	283	13	0.5	0.2	5	8
		6	A049S	67	67.5	81.8	1.5	0.5	0.3	5	1
C4	Punung東方	1	C155S	5	91	272	9	0.5	0.5	16	14
		2	C143S	0.5	51.5	278	1.5	0.5	0.2	13	29
		3	F089S	60	59.3	71.1	1.5	0.5	0.3	41	1
		4	D150S	2	23.6	144	5	0.5	0.1	1120	6
		5	E117S	2	41.1	136	47	0.5	0.3	5	15
		6	D139S	14	15.5	88.1	1.5	0.5	3.6	35	12
		7	D138S	1	17.3	134	28	8	0.3	10	5
		8	E109S	0.5	9.2	102	1.5	8	0.1	8	8
		9	E112S	0.5	32	295	1.5	0.5	0.6	15	106
C5	Pule北方	1	B064S	4	9.7	98	241	1	0.1	55	7
		2	D043S	0.5	16.3	120	1.5	0.5	0.1	467	14
		3	D042S	0.5	124	71.4	12	3	0.1	200	9
		4	D070S	4	9.6	90.2	1.5	0.5	3.6	21	4
		5	D057S	0.5	41.9	121	49	0.5	0.3	12	16
		6	A071S	2	62.2	356	1.5	0.5	0.3	27	40
		7	C057S	2	24.3	47.7	16	0.5	4.1	17	7
C6	Wonocoyo周辺	1	F056S	1	22.2	122	1.5	4	7.6	19	1
		2	C095S	0.5	21.6	65.2	4	0.5	5.1	13	7
		3	F043S	132	56	80.3	1.5	0.5	0.2	12	1
		4	F072S	4	28.5	112	10	3	0.1	9	5
		5	F039S	46	12.4	194	1.5	0.5	0.2	7	6
		6	F042S	14	27.5	127	1.5	0.5	4.6	10	7
C7	Ponorogo西方	1	C043S	0.5	34.7	101	1.5	7	0.1	36	1
		2	C019S	5	91.3	129	31	3	0.1	206	42
C8	Pacitan東方	1	B084S	1	19.1	90.9	1.5	0.5	0.1	233	8
C9	Pacitan北東方	1	A111S	96	57.4	74.1	1.5	0.5	0.3	2.5	1
C10	Kedungwedi川流域	1	E126S	69	14.9	171	1.5	0.5	0.4	6	4
		2	E141S	1	20.5	293	1.5	0.5	0.3	9	8
C11	Wonogiri西方	1	F113S	1	35.5	166	12	0.5	0.2	234	26

4-3 考察

以上の異常値から鉱徴地との関係から異常域をまとめると以下のとおりとなる。

表2-11 地化学異常域の総括表

地区名	地化学異常	地表の鉱徴	期待される鉱床
C1. Tegalombo - Slahung 地区	Au,Ag,Cu,Pb,Zn,As	・黄銅鉱・閃亜鉛鉱・石英脈 ・セリサイト化変質作用 (Kasihon 既知鉱床延長)	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床)
C2. Slahung 南方	Au,Ag,Zn,As,Hg	・石英脈, 黄鉄鉱鉱染 ・セリサイト化変質作用 混合層粘土化鉱物	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床?)
C3. Lorog 川付近	Au,Cu,Zn,As,Mo	・石英脈の分布 ・黄鉄鉱鉱染強し ・強セリサイト化作用	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床)
C4. Punung 東方	Au,Ag,Pb,Zn,As,Mo	・石英転石 ・プロピライト化変質 (既知鉱床の東方)	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床)
C5. Pule 北方~Ponorogo 東方	Ag,Cu,Zn,Mo,As,Hg	石英脈, 珪化岩 (既存鉱区内)	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床)
C6. Wonocoyo 東方	Au,Ag,Mo	石英転石	金銀石英脈 (ポーフィリーカッ パー鉱床?)
C7. Ponorogo 西方	Mo,Hg	(不明)	—
C8. Pacitan 北東	Hg	(既存鉱区内:不詳)	—
C9. Pacitan 東方	Au	・黄鉄鉱鉱染 ・石英転石	金銀石英脈
C10. Kedungwedi 川流域	Zn	・石英転石 (既存鉱区近し)	金銀石英脈
C11. Wonogiri 西方	Hg	(既知鉱床近し)	金銀石英脈

(C-1) Tegalombo-Slahung 地区：8 地点のうち、2 地点で Au 異常、2 地点で Ag 異常、1 地点で Cu 異常、3 地点で Pb 異常が検出された。石英脈試料は最高 1.1g/tAu(rock chip)を示すに過ぎないが地質調査・地化学探査地域のなかでは石英脈がもっとも多く発達している。また、黄銅鉱を伴う幅 35cm の石英脈は金品位は低いものの 2.2%Cu を示す。なお、変質鉱物としてはセリサイトが広く認められる。以上から本地区の地化学異常は Au、Ag 及び Cu の鉱化作用及びこれらに伴い Pb 及び Zn の鉱化作用を反映していると判断される。

(C-2) Slahung 南方地区：5 地点で Ag の異常、2 箇所 Zn の異常、1 地点で Au の異常がある。これらの分布域は伸長方向は N-S で、セリサイト変質・混合層粘土鉱物の変質帯にほぼ重なる。地表では黄鉄鉱の鉱染は発達するものの 3 箇所把握された石英脈のうち分析した 2 試料 (E10A,E13A)は 42ppb 及び 56ppb といずれも Au 品位は低い、本地域の地化学異常は主として Au、Ag の鉱化作用を反映していると考えられる。

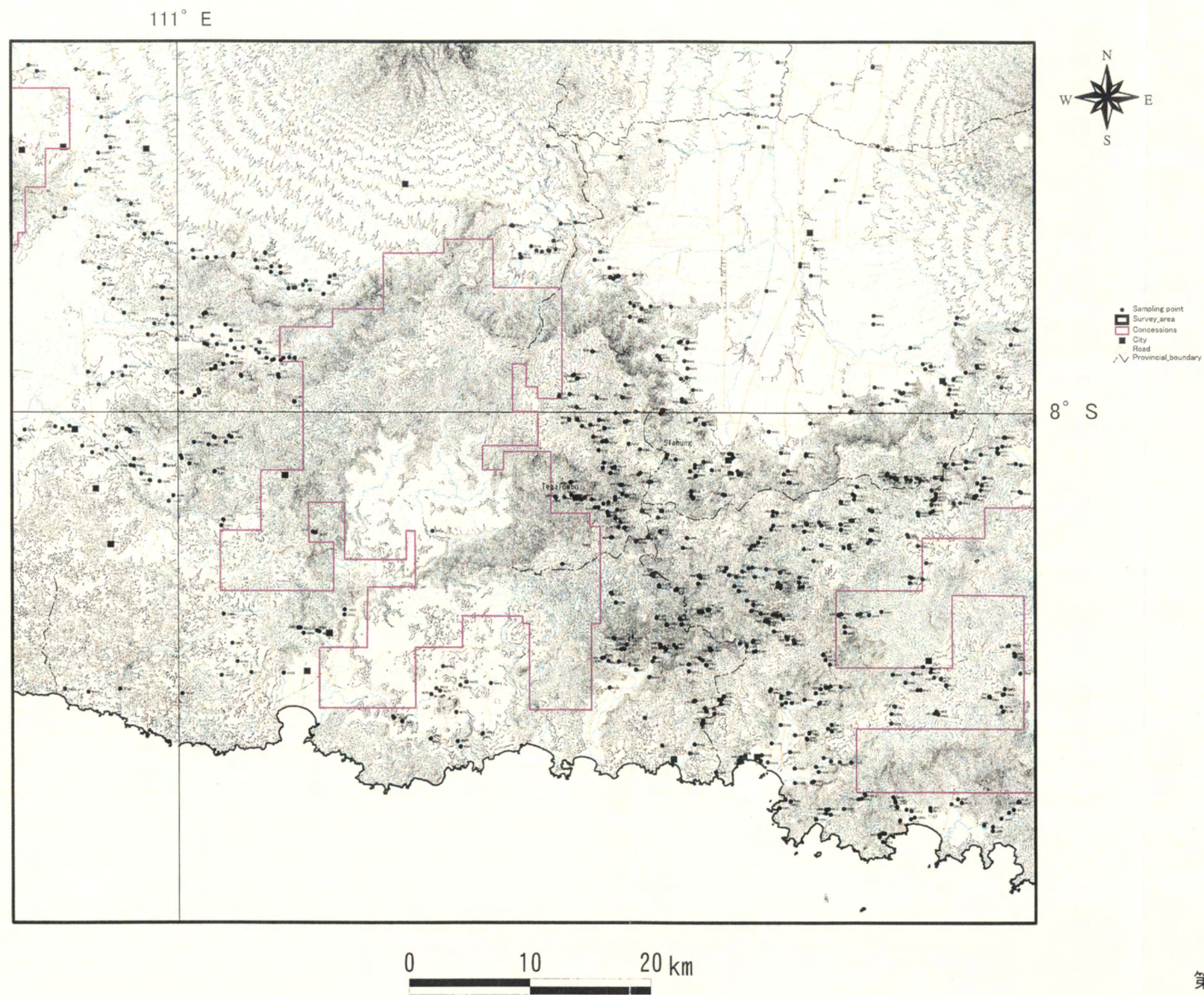
(C-3)Lorog 川地区：Lorog 川流域には Au 異常が 2 地点で、Mo 異常が 2 地点で、Cu 及び Zn の異常が 1 地点分布する。Lorog 川の下流域及び上流にそれぞれ N-S～E-W 方向及び N-S 方向に伸長する 2 帯の変質帯がともに Au の地化探異常域と重なる。変質鉱物としてはセリサイト・混合層粘土鉱物が認められ、このうち、Lorog 川下流では幅約 10cm 黄鉄鉱・粘土脈(F33A)には黄銅鉱を伴い Cu 品位が 6.9%を示し、カオリン鉱物が鉱化作用と関連して生成していると推定される。本地区には白色粘土化し黄鉄鉱が鉱染した石英斑岩の貫入が認められた。本地区の地化学異常は主として Au 及び Cu の鉱化作用を反映していると考えられる。

(C-4)Punung 東方地区：Au の異常及び Ag の異常がそれぞれ 1 地点ある。その他 Zn の異常が 3 地点、Mo の異常が 2 地点、Pb の異常が 1 地点分布する。本地区の東方、Kebonsari 鉱徴地では小規模に金を採取している。本調査では既存鉱区外には鉱化作用を示す露頭は確認されていないが、本地区の地化学異常は鉱化作用を反映したものと判断される。なお、変質鉱物として混合層粘土鉱物が認められた。

(C-5) Pule 北方地区：Ag の異常が 2 地点に、Mo、Cu 及び Zn の異常がそれぞれ 1 地点に分布する。また、As 及び Hg の異常がそれぞれ 2 地点ある。Candi の珪化岩及び Pule 石英脈の鉱徴地にはそれぞれ、N-S 系の珪化岩及び石英脈が胚胎している。本調査でのチェック・サンプリングの結果、Candi 珪化脈(A40A)及び Pule 脈の露頭(A45A)でそれぞれ、4.4g/tAu 及び 1.2g/tAu が得られ、この Candi-Pule 鉱徴地の NNE 方向に As 及び Cu の地化探異常が検出された。本地区ではセリサイト、混合層粘土鉱物、カオリン及びパイロフィライト等の変質鉱物を産する。

(C-6) Wonocoyo 地区： Au の異常が 2 地点で， Ag の異常が 3 地点で， Mo の異常が 2 地点ある。とくに Konong 川流域は Au, Ag の地化探異常が隣接して分布する。石英脈の転石 (F19A) は低 Au 品位 (58ppb) であったが，本地区の地化学異常は Au 及び Ag の鉍化作用を反映していると判断される。

(C-7) ～(C-11) の地化学異常域はいずれも地化学異常の集中度が上記(1)～(6)に比べ低い。このうち， Kedungwedi 川流域には本調査では確認できなかったが， 既知鉍徴地があるとされている。



第2-24図 試料採取位置図 (地化学探査試料)